



KAERU-SHINBUN

かえる

新聞

Vol.8
特別号
2025年

栃木県鹿沼市には「自分をかえる、地域をかえる」を合言葉に活動している高校生たちがいます。活動する高校生たちは自分たちを「かえる組」と名乗ります。

かえる新聞は、そんな高校生たちの地域活動や日常をまとめて、お伝えしていきます。きつとかえる組の姿が地域の未来の姿。どうぞ、お楽しみください。

ISSUE 今回の記事◎2025 やんぐ祭／自分をかえる／仲間との思い出／かえる組の3年間での成長／大学生から見たかえる組／仕事



↑ 2025年度 かえる組

無料

TAKE FREE

KAERU-SHINBUN

ADVICE 大学生からのアドバイス

大学生から見たかえる組

かえる組をささえる卒業生たちを「やんぐスタッフ」といいます。こんにちは、やんぐスタッフの渡辺大翔（やまと）です。初めての支える側。どこまで言っているのか、どこまでやっていいのか、その程度が難しかったです。私はモラルクラスの担当でしたが、高校生たちはすごい！サポートは不要で、自分たちで「〇〇だったから」と良いアイデアを膨らませていました。高校生たちの何ものにもとられない柔軟な発想や行動力には度々驚かされました。はじめは高校生との接し方もなかなか掴めずいたのですが、彼・彼女らとあまり年齢差がないので、同じ目線で、壁をつくらず、友達のように接することで、高校生たちが活動しやすくなってくれていたら嬉しいと思います。今年初めて、高校生としてでなく、やんぐスタッフとして参加し、たくさんの素晴らしい経験を得ることができました。初めて参加してくれた高校生はもろろんのこと、前年度より継続して参加してくれていた高校生の成長ぶりにも驚かされ、感動しました。ここの活動は私にとって、新たな発見や学びを与えてくれるものであり、心の拠り所でもあると感じています。来年度は新たな仲間が来てくれるのを楽しみに待っています。何せ、私がやんぐスタッフのなかでは最年少なので（笑）。



ABOUT かえる舎のこと KAERU-SHA

仕事

かえる舎の斎藤です。両親は教員で、世の中の仕事は教員しか知らず、大きくなったら自然と教員になると思っていたくらいでした。▼世界には本当に多くの仕事があって「何でも好きなことをやっていいよ」と言われても、多すぎて選べません。ずっと「理由」を探していた気がします。自分の「やりたいこと」だけで生きるのが苦手。▼かえる舎をはじめてからは、不思議と「理由」が次々に見つかりました。地域の声に耳を傾け、誰かが困っていたら自然と手を差し伸べる。そんな日々の積み重ねが、いつの間にか自分の仕事になっていました。▼仕事の選び方は、人それぞれ。やりたいことがある人もいれば、できることを積み重ねていく人もいます。「誰かの声に応える」ことが原動力でもいい。▼これからも、地域の中で見えてくる「まだ形になっていない想い」や「これからの世代の挑戦」に寄り添いながら、一緒に未来をつくっていかれたらと思っています。やりたいことではなく、「やる理由」から始まる仕事、未来があってもいい。



募集

一緒に活動してみたい高校生は、Instagramのダイレクトメッセージに氏名、学校、応募動機を添えて連絡ください。



Instagram

特定非営利活動法人 かえる舎
〒403-0009
山梨県富士吉田市富士見1丁目1-5
<http://kaerusya.jp>



WEB

かえるメモ①：支えてくれる地域の方々、卒業生たちなどのやんぐスタッフ、みんな合わせてかえる組です。かえる組のキーワードは「仲間」。

2025やんぐ祭

ACTIVITY REPORT

2025年、かえる組をふりかえって

鹿沼商工高校、藤田結子（ゆいこ）です。私は、前年度から老若男女に鹿沼の良さを知ってもらうため「鹿沼かるた」を企画しました。秋まつりのようなメジャーなものから大声川のような少しマニアックなものまで、色々な魅力を入れました。今年度、カルタの完成を目指して取り組みました。前回つくれなかった魅力をかき合わせ、ついに完成！みんなと協力して1つのものをつくる楽しさ、やりがい、達成感。たくさんの方の幸せを感じることができました。秋に開催したかえる組のイベント「やんぐ祭」。今回の天気は雨、私も心に雨を降らしつつ、かえる組初の試みとして「情報センター」での開催にお客さんが来てくれるのかすごく不安でした。でも、始まると、たくさんの方が足を運んでくれました！鹿沼かるただけでなく、モルック、すごろくなど様々なイベントに参加してくれました。やんぐ祭を目的にに来てくれる方々の笑顔に感動し、同時に成功できて安心しました。

今回はみんなを引っ張っていく側として、積極的に参加、活動し、やんぐ祭がもっとより良くなるように尽力できたと思います。得意なイラストを活かした自慢の鹿沼かるたもとても好評で、よかったと心の底から思えました。もっとこうすれば良かった、こういう改善点があったなど、思い残すところもありますが、このかえる組での2年間の活動は私の成長につながりました。去年は先輩から、今年は後輩から、たくさんの方の力をもらいました。少なくとも「おたまじゃくし」から「かえる」になったのではないのでしょうか？かえる組は鹿沼の魅力を伝える、広めることにとても貢献しています。私も、この活動を通して新たに魅力を知れました。そして、鹿沼についてさらに知りたいと、魅力を発信したいと、そしてもっと鹿沼が好きになった！と感じます。私はかえる組のメンバーである「自分をかえる」を達成できたと思います。ありがとうございます組！



自分をかえる

ACTIVITY REPORT

自分をかえる、鹿沼をかえる

鹿沼商工高校の松本夢（あゆむ）です。私は去年に引き続き鹿沼の魅力を知り周りの人にも伝えたいと思いかえる組に参加しました。私は国際色豊かな鹿沼市という視点で異文化理解を促進する取組を行いました。鹿沼には多くのベトナム籍の方々がいらっしやるので、交流を促進するためのベトナム語の紹介展示や、ベトナムの遊び紹介などを企画しました。当日は雨のため遊びは実施できませんでした。地域の方々にベトナムを知ってもらうきっかけを届けられたと思います。

準備を進める中で、同じ班の子と仲良くなれてたくさんの方と関わって嬉しかったです。地域の方々と直接お話しする機会があり、鹿沼のあたかさを改めて感じる時間になりました。実は自分自身が一番、鹿沼の良さに気づかされている気がします。私は協調性や主体性がついたと思っています。これからも鹿沼に住むので良さをたくさん見つけていきたいと思っています。

仲間との思い出

ACTIVITY REPORT

鹿沼で見つけた繋がり

鹿沼東高校の福田佑太（ゆうた）です。鹿沼市を知ろうと思ってかえる組に参加させていただきました。私は、鹿沼の木材を使ったモルックを企画し、準備、実施と取り組んできました。そこで鹿沼市の魅力や課題などを改めて知って、これからどうすれば良さを伸ばして発信していく、課題を解決できるのかを考えるきっかけになって自分自身とても成長できた場所だったと感じています。

また、その中で、他校の生徒や市役所の方々、〇〇の方々、地元の方々との関わりを通して繋がりが生まれて、とても楽しく幸せでした。また鹿沼市の魅力を現場で、自分の目で見られて貴重な経験をさせていただいたなと感謝しています。普段の自分なら絶対に体験できないことがこの活動ですることができ、かえる組のメンバーのひとりである自分をかえるということができたかなと思っています。このメンバーでできてよかった！

かえる組の3年間での成長

ACTIVITY REPORT

未来へつながった鹿沼での3年間

作新学院高等学校の田中杏月（あづ）です。私は1年次よりかえる組の活動に参加し、本年度で3年目となりました。これまでの経験を基に、今年度は活動全体がより円滑に進行するよう、準備段階から計画性を重視し、意識して取り組みました。また、新たな試みとしてフィナンランド発祥のスポーツであるモルックを企画に導入しました。全部が初めてで、準備に時間を要しましたが、メンバーやスタッフの方々の協力で、実現できました。この過程は、協働の重要性や責任をもって役割を果たす意義を理解する機会となりました。当日は悪天候により屋内での開催となりましたが、それにもかかわらず多くの地域住民の方々に来場いただきました。地域に根ざした活動であることを再確認することもできました。モルックを通じて多くの子どもたちに鹿沼の魅力を届けられました。地域の方々と直接触れ合う機会の意義を改めて感じ、活動をする価値を実感しました。

活動では、各自が自らの特性を理解し、互いに補い合いながら役割を果たす姿が見られました。このような環境の中で活動を重ねることにより、多様な価値観に触れ、自分の視野が広がったと感じています。私にとってかえる組は、自身の考えを明確にし、行動へと結びつける力をくれた場でありました。これからも、かえる組で得た姿勢と学びを忘れず、より高い目標に向かって努力していきたいと思っています。

